

```

1  /*****
2  /*****
3  /***                                     ***/
4  /***      コンペアマッチタイマCMT0~CMT3による周期割り込みの発生      ***/
5  /***                                     ***/
6  /***                                     by: S. Suzuki ***/
7  /*****
8  /*****
9  /* 注意 : ・ PCLK=20MHzであること。 */
10 /*      : ・ RX220の64ピンパッケージであること。 */
11
12 #include <machine.h>
13 #include "typedefine.h"
14 #include "iodefine.h"
15
16
17 #pragma section
18 #pragma bit_order right
19 /*****
20 /*      コンペアマッチタイマ初期化      */
21 /*****
22 /* 注意 : CMTのコンペアマッチ割り込みCMIはCMCNT=CMCOR (CMCORは0x0000になる) */
23 /*      : となった次のクロックで発生するため、CMCORで指定したカウント値より */
24 /*      : 1カウント分多い時間になってしまう。従って、CMCORには希望のカウント */
25 /*      : 値-1の値を設定する。 */
26 /* 注意 : コンペアマッチが発生するとカウンタCMCNTは0x0000になる。 */
27
28 #define CONST500U    (1250)          /* PCLK/8(=2.5MHz)時の500uS発生用コンスタント値 */
29 #define CONST01M    (2500)          /* PCLK/8(=2.5MHz)時の1mS発生用コンスタント値 */
30 #define CONST10M    (25000)        /* PCLK/8(=2.5MHz)時の10mS発生用コンスタント値 */
31 #define CONST50M    (7812)         /* PCLK/128(=156.25KHz)時の50mS発生用コンスタント値 */
32 #define CONST100M   (15625)        /* PCLK/128(=156.25KHz)時の100mS発生用コンスタント値 */
33
34 void Init_PeriodTimer(void)
35 {
36     /* 動作モード、消費電力低減機能、ソフトウェアリセット関連レジスタへの書き込みを許可する */
37     SYSTEM.PRCR.WORD = 0xA502;
38     /* CMT0, CMT1のモジュールストップ解除 */
39     MSTP(CMT0) = 0; /* SYSTEM.MSTPCRA.BIT.MSTPA15 = 0; (CMT0~CMT1共通) */
40     /* CMT2, CMT3のモジュールストップ解除 */
41     MSTP(CMT2) = 0; /* SYSTEM.MSTPCRA.BIT.MSTPA14 = 0; (CMT2~CMT3共通) */
42     /* 動作モード、消費電力低減機能、ソフトウェアリセット関連レジスタへの書き込みを禁止する */
43     SYSTEM.PRCR.WORD = 0xA500;
44
45     /* コンペアマッチタイマCMT0, CMT1, CMT2, CMT3停止 */
46     CMT.CMSTRO.WORD = 0x0000;
47     CMT.CMSTR1.WORD = 0x0000;
48
49     /* コンペアマッチタイマCMT0初期化 */
50     CMT0.CMCR.WORD = 0x0040; /* クロック選択(PCLK/8→2.5MHz), コンペアマッチ割り込み (CMI0)
を許可 */
51     CMT0.CMCNT = 0x0000; /* コンペアマッチタイマカウンタクリア */
52     CMT0.CMCOR = CONST01M-1; /* コンペアマッチタイマコンスタントレジスタセット(1mS) */
53     /* コンペアマッチタイマCMT1初期化 */
54     CMT1.CMCR.WORD = 0x0040; /* クロック選択(PCLK/8→2.5MHz), コンペアマッチ割り込み (CMI1)
を許可 */
55     CMT1.CMCNT = 0x0000; /* コンペアマッチタイマカウンタクリア */
56     CMT1.CMCOR = CONST10M-1; /* コンペアマッチタイマコンスタントレジスタセット(10mS) */
57     /* コンペアマッチタイマCMT2初期化 */
58     CMT2.CMCR.WORD = 0x0042; /* クロック選択(PCLK/128→156.25KHz), コンペアマッチ割り込み (C
MI2) を許可 */
59     CMT2.CMCNT = 0x0000; /* コンペアマッチタイマカウンタクリア */
60     CMT2.CMCOR = CONST50M-1; /* コンペアマッチタイマコンスタントレジスタセット(50mS) */
61     /* コンペアマッチタイマCMT3初期化 */
62     CMT3.CMCR.WORD = 0x0042; /* クロック選択(PCLK/128→156.25KHz), コンペアマッチ割り込み (C
MI3) を許可 */
63     CMT3.CMCNT = CONST100M/3; /* コンペアマッチタイマカウンタセット (CMT2と同期しないよう初期
値をずらす) */
64     CMT3.CMCOR = CONST100M-1; /* コンペアマッチタイマコンスタントレジスタセット(100mS) */
65
66     /* 割り込み優先順位セット */
67     IPR(CMT0, ) = 6;
68     IPR(CMT1, ) = 6;
69     IPR(CMT2, ) = 6;
70     IPR(CMT3, ) = 6;
71     /* 割り込み要求ステータスフラグクリア */
72     IR(CMT0, CMI0) = 0;
73     IR(CMT1, CMI1) = 0;

```

```

74 IR(CMT2, CMI2) = 0;
75 IR(CMT3, CMI3) = 0;
76 /* コンペアマッチ割り込み許可 */
77 IEN(CMT0, CMI0) = 1;
78 IEN(CMT1, CMI1) = 1;
79 IEN(CMT2, CMI2) = 1;
80 IEN(CMT3, CMI3) = 1;
81
82 /* コンペアマッチタイマCMT0, CMT1をスタート */
83 CMT.CMSTRO.WORD = 0x0003;
84 /* コンペアマッチタイマCMT2, CMT3をスタート */
85 CMT.CMSTR1.WORD = 0x0003;
86 }
87
88
89 /*****
90 /* CMT0コンペアマッチ割り込み (CMI0) の処理 */
91 /*****
92 /* ※1mS周期 */
93 /* ※CMIInはエッジ検知割り込みのため、IRフラグは自動的にクリアされる。 */
94
95 #pragma interrupt (Int_CMT0_CMI0)
96 void Int_CMT0_CMI0(void)
97 {
98     /* ここに1mS周期で実行する処理を記述 */
99 }
100 }
101
102
103 /*****
104 /* CMT1コンペアマッチ割り込み (CMI1) の処理 */
105 /*****
106 /* ※10mS周期 */
107 /* ※CMIInはエッジ検知割り込みのため、IRフラグは自動的にクリアされる。 */
108
109 #pragma interrupt (Int_CMT1_CMI1)
110 void Int_CMT1_CMI1(void)
111 {
112     /* ここに10mS周期で実行する処理を記述 */
113 }
114 }
115
116 /*****
117 /* CMT2コンペアマッチ割り込み (CMI2) の処理 */
118 /*****
119 /* ※50mS周期 */
120 /* ※CMIInはエッジ検知割り込みのため、IRフラグは自動的にクリアされる。 */
121
122 #pragma interrupt (Int_CMT2_CMI2)
123 void Int_CMT2_CMI2(void)
124 {
125     /* ここに50mS周期で実行する処理を記述 */
126 }
127 }
128
129 /*****
130 /* CMT3コンペアマッチ割り込み (CMI3) の処理 */
131 /*****
132 /* ※100mS周期 → 分周して1秒周期を作成 */
133 /* ※CMIInはエッジ検知割り込みのため、IRフラグは自動的にクリアされる。 */
134 static int st_nDivSecCnt;
135
136 #pragma interrupt (Int_CMT3_CMI3)
137 void Int_CMT3_CMI3(void)
138 {
139     /* ここに100mS周期で実行する処理を記述 */
140
141     st_nDivSecCnt++;
142     if(10 <= st_nDivSecCnt) {
143         st_nDivSecCnt = 0;
144         /* ここに1sec周期で実行する処理を記述 */
145     }
146 }
147 }
148
149 /* End of File */

```